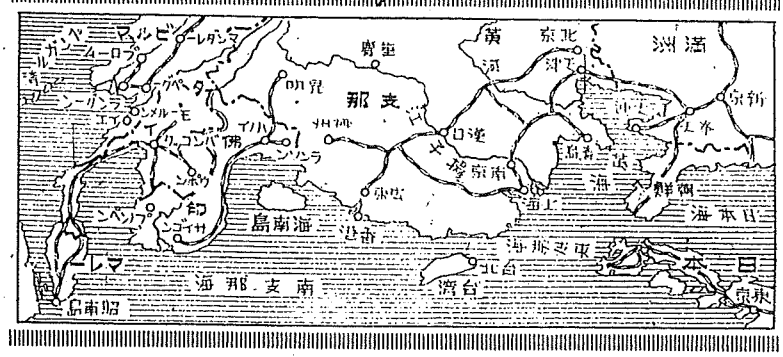
大共榮圏鐵道・雄大な構想



東京→昭南港坐つたまゝで

【バンコック本社特電十三日庄子、山田（茂）両特派員發】佛印、タイ、ビルマ、マレーのいはゆる東南アジヤ半島は大東亞戰の輝かしい進展と共にわが南進力の中堅基地として政治的にも軍事的にもいよくその重要性を增して來た、この東南アジヤ半島の存在意義はゴム、錫、米など重要資源の確保もさることながら東は大東亞海、西はインド洋の両大洋を抱き、更に支那、インドの両大陸に接石の睨みを利かせ、同時に佛印、タイの両政府を指導すべき重大な責任を有する特殊地域であること、ただ、これがためにはまづ南方の航空輸送力の確立はもとよりのこと、大東亞海の急速なる海運の發展と相俟つて鐵道による交通網の確保が現地で強く叫ばれるに至つたことは注目される

現在東南アジヤ半島の鐵道はタイ三千四百キロ、佛印三千三百キロ、ビルマ三千五百キロ、マレー一千七百キロ、合計一万一千九百キロを有し何れも軌幅一メートルに統一されてゐる、タイ國はこの地理的關係から今大東亞戰爭の前線兵站基地としての重大な役割を演じてゐるが、將來もまた東南アジヤ半島の陸路交通に關する限り依然中心的地點たることに變りはない、タイ國の交通政策を見ると一九三五年鐵道の廿五ケ年計畫、道路の十八ケ年計畫を樹立し目下着々進捗中で、國有鐵道三千二百キロのほか二百キロの私設鐵道、それに自動車道路三千キロ、一般道路一万二千三百キロが既に完成、更に八千キロの豫定鐵道と二千キロの道路建設が企劃されてゐるが、現在その運輸狀態は水運、道路によるもの七割で七、八百万トン、鐵道によるもの二割で百六、七十万トンを占め、そのうちバンコック鐵道によつて八十万トンの物資を吞吐してゐる

かういふ狀態のもとで東南アジヤ鐵道建設の構想は當然昭南島よりバンコックに達し東北線の終點ウボンを經て佛印鐵道に連絡すべく新線を計畫し、ハノイよりランソンへ、更に國東に鐵路を延長せしめ支那大陸と連絡するのみならず支那大陸の縱貫とし、南京、天津を經て遂く滿洲國新京と繋ぎ、更に目下立案調査中の釜山、下關間の海底トンネルによつて南は昭南島から東京に至る大東亞縱貫鐵道幹線を實現し、更にバンコックより東へは現在のプノンペンから更にサイゴンに結び、西へはバンコックより溪谷美の國境を越えてビルマのイエに出てそれより既設鐵道によりモールメン、ペグー、ラングーンに結べば北はマンダレーから西はブロームまでの鐵路があり之に大東亞共榮圏の鐵道はバンコックを中心として東へサイゴン、西へラングーン、南へ昭南港、北上して國東から東に中支へ、そして東京へ、新京へと鐵道による東亞共榮圏經力の增大を圖ることが出來るものでこの世紀の大鐵道計畫は近き將來必然に實現完成さるべきものであらう

敵も慄へ上る〝引込脚〟

驚異の性能・陸の『隼』號

初陣以來 血祭る二百數十

東京陸軍幼年學校卒業式

東京陸軍幼年學校第四十三期卒業式は侍從武官山縣中佐の御差遣を仰ぎ十四日朝遊就館西大久保の同校において擧行された、卒業生中野川大佐から訓示の授與、優等生原田昇、天野英春、小西剛雄の三名に對して恩賜賞品の授與があり同十一時半式を終つた、卒業生中には中村孝太郎大將、三男重正君、荒木貞夫大將三男明夫君等軍人の子弟が多い

新聞も回讀

英國愈々細る

【マドリッド十三日發同盟】獨逸によればインド洋を制鎖され大西洋を封鎖された英國は今や極度の物資補給難に陷つた、二、三の例を見ると、

▽バスの切符も保存　紙不足の折柄バスの乘車券を捨てないで回收する、不注意で捨てても處罰される

▽新聞の減頁　戰前は何れも廿頁から廿四頁だつたのが、四頁減らされた、タイムスは戰爭になつてから八頁乃至十六頁だつたが今度四頁となつた、發行部數も制限される結果一つの新聞を隣同士で回し讀みしなければならなくなつた

だん高度を下げる、わが編隊機もそれに從ふ、輸送機團の速力が非常に鈍くなつた、降りるかなと思つた瞬間ぐらげ型の雲がパッと眼下に開いた、時に十一時半

降りたんだ、編隊の一部は落下傘部隊降護、他の一部は輸送機護衛にと二隊に向つて進中、一時間余の艦空飛行後早くも地上に驚る日章旗に重寶を果した喜びを抱いて輸送機を護衛しつゝ歸還したが、この戰果は落下傘部隊パレンバン海軍成功の陰れた偉大な功績であつたのだ

かくて重なる武勳に輝く隼部隊は敵を休める間もなくジャバ島攻擊に轉じ、二月廿三日敵最大飛行場バイテンゾルグ飛行場の對地襲擊に大型十六機、中型四機、計廿機の戰闘機撃破を初めカリヂャチ、バンドン両飛行場を攻擊したが、緒戰以來既に二百數十機を撃墜した隼號の威力には敵も全く驚き、スマトラ、ジャバ、蘭印及びマレーの空戰では脚のない隼號の姿を見ると機首を返して遁走するか、彈に撃たれて落下傘で降下するみ